

ち ば の 地 域 福 祉

中核地域生活支援センター大会 in 2016に向けて

千葉県中核地域生活支援センターひだまり所長
中核地域生活支援センター大会2016実行委員長
民 内 順 子

千葉県中核地域生活支援センター大会は今年度で4回目を迎えます。第1回開催当初からの主な目的は「中核地域生活支援センターの普及・啓発」ですが、その中でも毎年千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会（以下連絡協議会）においてその年毎のテーマを決定し、取り組んでまいりました。

今年度も大会の方向性について協議を重ねた結果、今年度は「子どもたちや若者たちへ視点を向ける」という結論に至りました。困難に直面している10代、20代の子ども・若者たちの状況を共有し、求められる支援やそのあり方を考える機会といたしました。

今回の大会の案内チラシにも引用させて頂きましたが、「子どもの貧困対策の推進に関する法律第8条」に基づき策定された「子供の貧困対策に関する大綱」に「全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し」とあり、大綱にはさらに「明日の日本を支えていくのは今を生きる子供たちである。その子供たちが自分の可能性を信じて前向きに挑戦することにより、未来を切り拓いていけるようにすることが必要である。しかしながら現実には、子供たちの将来がその生まれ育った家庭の事情に左右されてしまう場合が少なくない。」と問題提起されています。

今回の大会において基調講演を頂く日置真世さんは、釧路でNPOの起業に携わり、障害福祉事業や児童福祉事業(自立援助ホーム)等を展開し、また、札幌市のスクールソーシャルワーカーとしても活動し、学齢期の子どもとその家族の相談に対応しておられます。こうした活動で出会った様々な困難(家族の不和、貧困、病気や障害、不登校等々)にぶつかった若者を支援してこられた経緯をお持ちの方です。

大会のテーマを「自立を育む地域社会を考える～子どもたち・若者たちの声、聞こえていますか～」とし、10代、20代の子ども・若者の困難を具体的な事例にそってお話いただくとともに、これまでの活動内容と、そこで蓄積された成果をお示しいただける機会となるのではないのでしょうか？

また、午後からのシンポジウムでは、テーマを「私たちに出来ること」とし、社会的養護・貧困・居場所・自立支援等のキーワードに、千葉県内で活躍されておられる市川子ども食堂ネットワーク 副代表 梅澤 岳さん、社会福祉法人生活クラブ はぐくみの杜君津 施設長 高橋 克己さん、千葉県立障害者高等技術専門学校 主査 石川 豪志さん、三人のパネリストの方々から、それぞれの取り組みの実践報告をいただきます。また、日置 真世さんにもコメンテーターとして加わっていただく予定です。コーディネーターは連絡協議会会長の 渋沢 茂が務め、それぞれの地域の特性を生かし、今後支援ネットワークの整備・活用を視野に入れながら取り組みの方向性を考えていきたいと思っております。

急速な少子・高齢化が進む中、毎日のように耳にする児童虐待やいじめ、貧困等の報道を聞くたびに心が痛みます。今回の大会を通じて、子ども・若者の無限の可能性が発揮できる環境をつくるため、様々な立場で考え、行動に移すことが出来ればと思います。

今までも足を運んでご参加いただいた方は勿論のこと、児童分野や若者関係の関係者の方々、また関心を寄せていただける多くの皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

ちから ちばの福祉力・社会資源

持続可能な未来に向けた福祉社会を創る力を

社会福祉法人 千葉県身体障害者福祉協会
理事長 神林 保夫

中核地域生活支援センター事業が12年目を迎えられ、更なる発展に向けて活躍されて居りますことに心から敬意を表します。

さて、当協会は、身体障害者福祉の推進を目的に昭和34年に発足し、50年からは社会福祉法人として活動を行っています。

身体障害者(肢体・視覚・聴覚・体幹・内部等と軽度から重度)は違った障害部位、等級を有し、それぞれが個性の異なる人格や価値観を持っています。それを理解し合い相互に尊重し合うところから始まり、共有する福祉の向上を究極の目標として、歩み・考え、尊厳の大切さを身につけてきました。

「住み慣れた地域で普通に暮らせる社会」は、障害者・高齢者だけでなく誰もが望む普遍の願いと思っており行動の原点としています。

昭和25年に施行されました「身体障害者福祉法」以降、各種法律・制度・計画の立案と実践が行われて今日があります。この中で特に印象に残る障害者福祉の、施行と推進策では平成7年の「ノーマライゼーション7か年戦略」の、物理的・制度的・意識的・文化情報のバリアフリー社会の構築でした。驚異的な環境の整備は、身体障害者の意欲的な社会参加の自立・自助につながり思い出として残っています。

最近では、障害者の定義も国際的な福祉社会構想の機運を取り入れ障害者を「医療モデル」(障害は病気や外傷等から生じる個人の問題であり医療を必要とするものである。)から

「社会モデル」(障害は主に社会によって作られた障害者の社会への統合の問題である。)と人権を重視したものに移行されています。

本年4月からは障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律「障害者差別解消法」が施行されました、国の行政機関・地方公共団体等と民間事業者における障害者への合理的配慮が明示され、これからの障害者差別解消を通じた市民全体の社会貢献機運醸成に期待が持たれます。

身体障害者自身の自立責任と努力も大切と思っています。

当協会の役割も、福祉社会の担い手としての認識を持ち、持続可能(サステナブル)な未来に向けた福祉を創る力を学び、身体障害者全員が育む、責任と努力を明日に向けた活動の活力と考えております。

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

<ピアサポートクラブ ICHI-JO>

(HP アドレス)<http://ichi-jyo.jimdo.com/>

《ICHI-JO (イチジョ)》 代表の小沢さんをはじめ役員の方々に話を伺ってきました。ICHI-JO はピアサポーター講座を受けた人たちが集まり、ピアサポート活動を広げるために結成された団体です。ピアサポーターとは、自身の病気や障害の経験を活かし、人と人の支え合いやつながりを構築することを目的として活動する人たちです。

お気軽に、ご連絡ください！！



ICHI-JO のメンバーは各地で開催されたピアサポート講座を修了した人たちで、会員は 10 名ほどです。

毎月第 2 金曜日に役員会を行い、第 4 金曜日にミーティングを行っています。ミーティングでは事業内容の相談を行い、ピアサポート活動を地域に周知していくためにはどうしたらよいか日々話し合っています。

最近では近隣の精神科病院からの依頼を受け、デイケアで利用者さんのミーティングと一緒に参加したり、退院後にグループホームに入居することを考えている利用者さんにグループホームでの生活や地域生活についての体験談を話したりする活動を行っています。利用者さんから当事者同士だから話せたと言われた時は嬉しかったそうです。

この日は病院のデイケアのミーティングに ICHI-JO の活動として参加しました。デイケアの利用者の方々と、コーヒーとお菓子を食べながら、日頃の悩み、趣味の話などを皆で発表し合いました。病院の職員の方はデイケアの利用者さんにもピアサポート活動を知ってもらい、ピアサポーターの活動の場を広げていければとおっしゃっていました。



<今後の展望>

ICHI-JO では、今後の展望としてピアサポーター同士の交流会、ピアサポーターの派遣・養成、相談活動、イベント・学習会の開催を検討しています。実際に訪問看護に同行すること等海匝圏域においてピアサポーターの活動の場を広げるために日々頑張っています。





ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

中核地域生活支援センター大会 in 2016

【内容】平成26年に「子供の貧困対策に関する大綱」が策定されました。大綱では、子どもの将来が生まれ育った環境で左右されることのないよう、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、すべての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現をめざし、総合的な施策の推進をめざすこととされています。こうした理念を達成するには、行政だけではなく、さまざまな立場の関係者が力を合わせて子どもたちの育ちを見守っていくことが求められます。今年の大会では、子ども・若者の自立を育むための各地の取り組みを学びながら、必要な支援のあり方を探ります。

【プログラム】基調講演：「私たちの声、届いていますか？」

～生きづらさを抱えた若者たちと一緒に考えたこと～

講師：日置真世 さん（札幌市スクールソーシャルワーカーほか）と 若者たち

講師の日置真世さんは、釧路市で「NPO法人地域生活支援ネットワークサロン」を立ち上げ、障がいのある人たちの支援、若者支援等に関わる。その後、札幌市のスクールソーシャルワーカー等。虐待、不登校、精神疾患、自殺未遂など様々な生き辛さを抱えた若者たちの自助グループ「Frame Free Project(フレーム・フリー・プロジェクト)」をサポート。

報 告：中核地域生活支援センター実践報告

シンポジウム：「私たちに出来ること」

パネリスト：梅澤 岳さん（市川こども食堂ネットワーク 副代表）

高橋克己さん（社会福祉法人生活クラブ はぐくみの杜君津 施設長）

石川豪志さん（千葉県立障害者高等技術専門学校 主査）

コメンテーター：日置真世さん

コーディネーター：渋沢 茂さん（中核地域生活支援センター 長生ひなた センター長）

【日時】平成28年7月11日（月）10：00～16：00

【会場】千葉市生涯学習センター2階ホール（千葉市中央区弁天3丁目7番7号）

【定員】先着300名 **【参加費】**1,000円 **【申込締切】**6月30日（木）

【申込】お名前・ご所属・ご連絡先・障害対応の必要の有無・特に配慮が必要なことをご記入のうえ、下記問合せ先までFAXまたはメールにてお申込みください。

【問合せ】中核地域生活支援センター『ひだまり』

TEL：0470-28-5667 FAX：0470-28-5668

E-mail：hidamari@s-taiyou-kai.jp

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

代 表 者： 渋 沢 茂

事務局：ひだまり（安房圏域）館山市山本1155

TEL:0470-28-5667 FAX:0470-28-5668

編 集：君津ふくしネット（君津圏域）富津市青木2-16-14

TEL:0439-27-1482 FAX:0439-88-1481

※内容についてのお問い合わせは、君津ふくしネット（担当：玉手）までお願いします。